

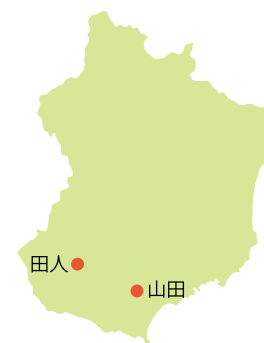


落花生

落花生

いわき市内の落花生の栽培地域

- 山田町新谷
- 田人町^{にちぶ}荷路夫



生産の歴史的由来

落花生は南アメリカ原産で、ボリビア地域で野生種から栽培化されたといわれています。日本には18世紀の初めに中国を経て伝来し、明治時代以降、本格的に栽培されるようになりました。

夏の高温期にもよく育ち、秋に収穫します。花が咲いたあとに、子房柄^{しぼうへい}と呼ばれるつるが伸びて地中に入り、実をつけることから落花生の名前で呼ばれるようになりました。

いわき市内で代々、落花生を栽培していることが確認できた田人町と山田町は隣接した地区ですが、収穫した落花生には、色・形などいくつかの違いが見られました。収穫作業をはじめ幾度にもわたる乾燥、殻割りと面倒な作業が多い落花生ですが、いずれのお宅も、手間をかけても毎年作りたい作物の一つのようです。



◆子房柄が地中にもぐり実をつける

栽培方法の一例

5月中旬から下旬が播種に適しています。まず、畑は幅80cm、高さ20cmほどの畝を作り、堆肥と野菜配合肥料を混ぜ、種蒔きの準備をします。前年に収穫したものの中から、大粒のものを選び、種皮がついたまま4～5cmくらいの深さで2粒ずつ畑に直播きします。落花生はせっかく蒔いた種が鳥やもぐらに食べられてしまうことがあるため、種はいつも多めに蒔くそうです。

追肥は野菜配合肥料を施します。芽が出た直後に1回、芽が伸びてくる過程で1回、あとは葉の色を見て追加します。土寄せはこの際に少しずつ行います。

7月から8月にかけて黄色い花が咲き、花が終わった箇所からつるが伸びて地中にもぐり始めます。

10月中旬になると葉が半分くらい落ちてくるので、根ごと掘り起こし逆さまにして畑で2日ほど干します。こうすることで殻がはずしやすくなります。雨に当たっても問題ありませんが、できれば晴れの続く日に行うのがよいでしょう。

落花生は乾燥に時間を要します。大きめのザルに広げ、まず殻のまま2～3週間、次に殻をむいて更に2週間ほど天日に干します。この間、手で何度か返し、まんべんなく日が当たるようにします。完全に乾いたらペットボトルに入れて保存し、食べる際に火を通します。



◆種子にもなるピーナッツ



◆発芽の様子



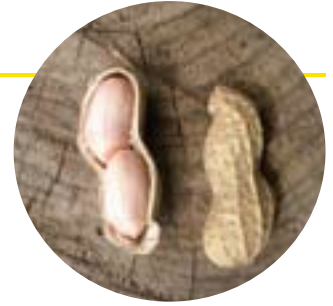
◆乾燥のようす

特徴

田人町荷路夫地区で栽培されている落花生は、栽培者が幼い頃に父親が千葉からもってきたものを嫁ぎ先に持参し、以来、自家採種して栽培を続けてきたというものです。粒が比較的小さく、豆を覆っている種皮の赤みが強いのが特徴です。殻の中の種子の数は1個～4個と様々です。



◆田人町の落花生



◆山田町の落花生

一方の山田町の落花生は、約40年間栽培が続いているもので、収穫直後の種皮の色は白っぽく日に当て乾燥させることで赤みを帯びてきます。殻の中の種子の数は2～3個です。

REPORT

作り続ける理由

栽培者の言葉によれば、「好きで作っているが、両親への思いや種を切らしたくない気持ちが栽培を継続してきた力」になったそうです。たくさん収穫して充分乾燥させペットボトルで保管し、調理の都度、使う分だけ出して、でんろく豆や油味噌にして食べます。

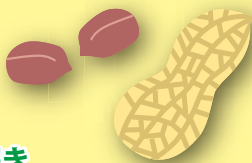


◆ピーナッツの油味噌

落花生ができるまで

種蒔き

種にするのは大粒でふっくらとした豆が良いでしょう。種蒔き直後は鳥に狙われやすいので注意しましょう。



落花生の花



土をかぶせる

花が終わったところからつるが地中にもぐるように伸びて、株全体が倒れてきます。花期の終わりを見計らって株全体に土をかぶせます。



追肥と土寄せ

追肥と土寄せは収穫までに3～4回行います。肥料はさほど多くなくて大丈夫です。株が大きくなるまでの間は除草はまめに行いましょう。



収穫

根ごと掘り起こし、土に残った落花生もふるいなどを使って収穫します。ここでいったん逆さまにして干すと、つるから殻を取り外しやすくなります。殻の状態です洗いし2～3週間、さらに殻を外して2週間ほど天日で乾燥させます。

